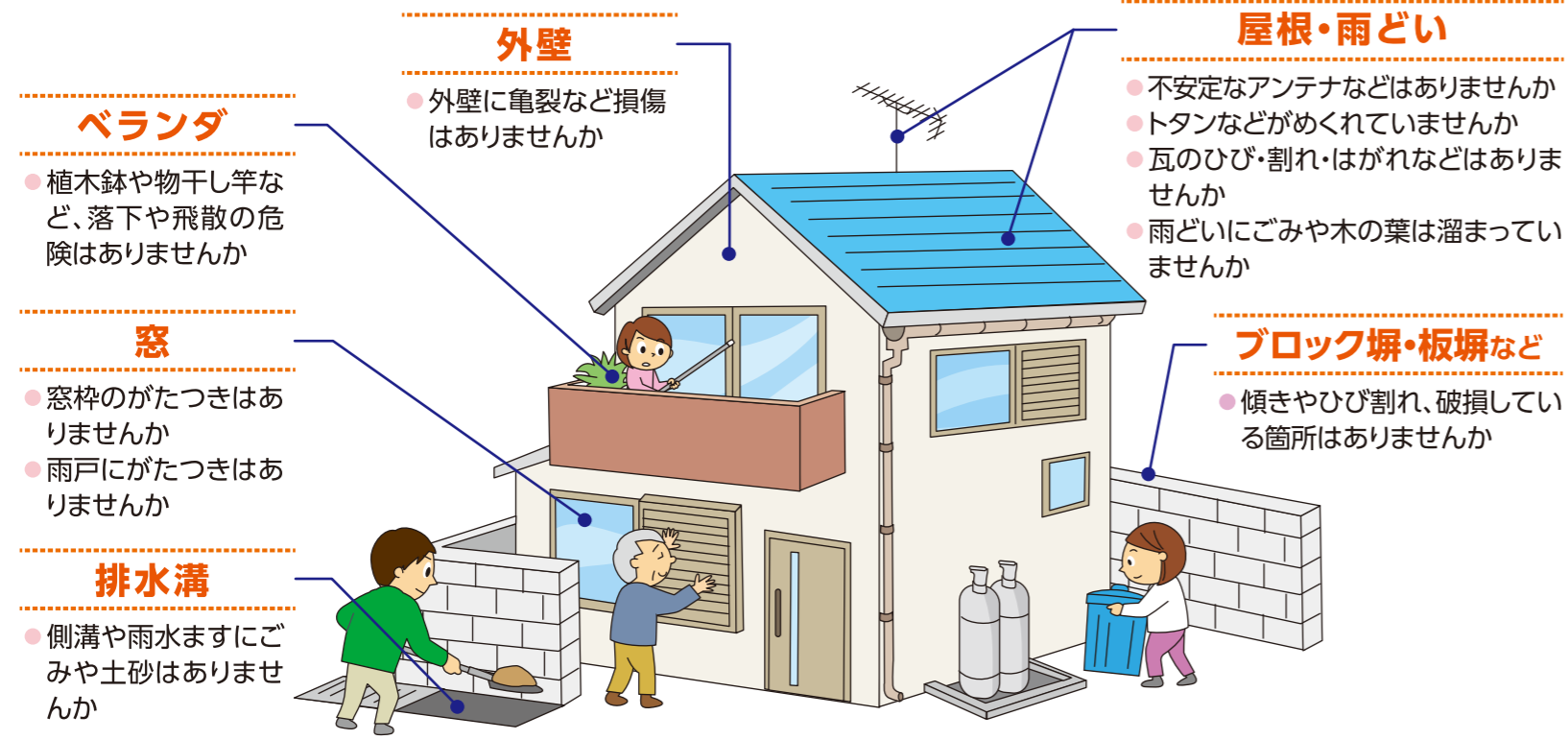


風水害日頃の備え

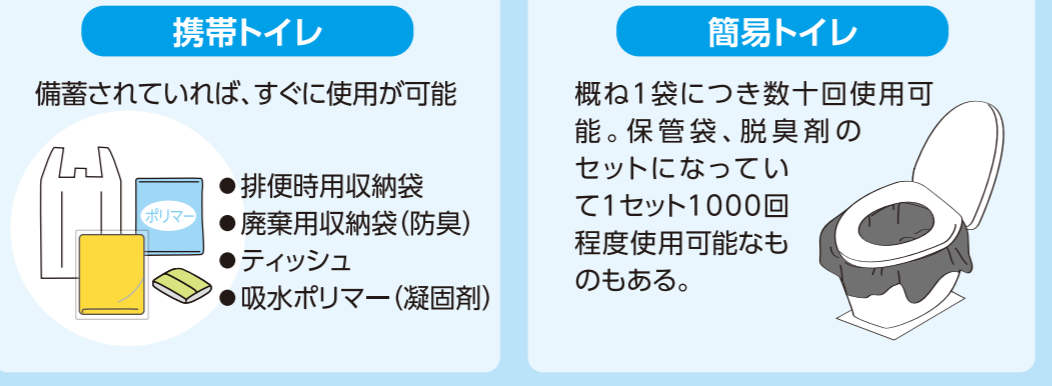
台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



- その他**
- ガスボンベは固定していますか
 - 庭木には添え木をしていますか
 - 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
 - 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか
 - ごみ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか

災害時、トイレが使えなくなったら...

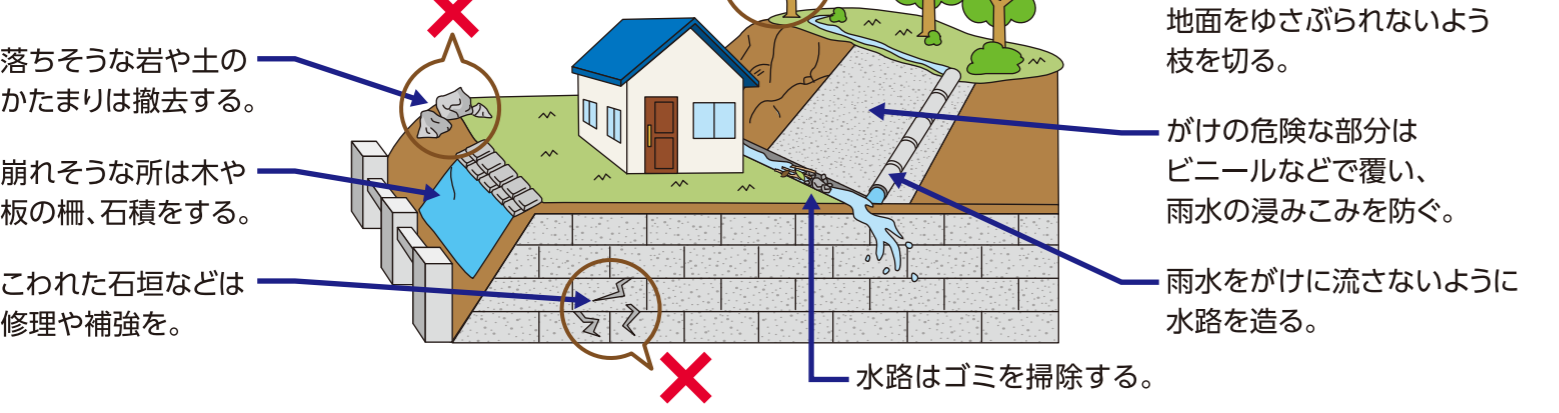
災害により断水でトイレが使えなくなることが想定されます。最低でも3日分(家族の人数×1日のトイレ回数×3日分)の携帯トイレ、簡易トイレの備えをしておきましょう。



※凝固剤を使って水分をなくせば、トイレゴミを燃えるごみとして出すことができます。

家の周りの備え

斜面の状態の変化に十分注意しましょう。



火災対策 火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せたらとせず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求め。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別 初期消火のコツ	油なべ	石油ストーブ	衣類
	あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火。	真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火。	着衣に火がついたら転げまわって消すの方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。
	風呂場	電気製品	カーテン・ふすま
	風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火。	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火。	カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。

消火器の使い方 粉末・強化液消火器の場合



火災予防が一番!!

火災報知機の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災報知機の設置が義務付けられました。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災報知機の設置場所

寝室	すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
階段	寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
台所	台所への設置も必要です。

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。設置してから10年を目安に取りかえましょう。
※住宅用火災警報器の設置義務化を契機に、訪問販売による不適正な販売が増加しています。ご注意ください!

